

# 2018年度 学校評価自己点検・自己評価

評価基準 3:よく当てはまる 2:大体当てはまる 1:当てはまらない

評 評価実施日:2019年3月1日

尾道市医師会看護専門学校

価者:教職員12名

I 教育理念・教育目的		振り返り	自己評価平均	学校関係者評価
1	卒業時点において育成する保健師助産師看護師がどのような資質を有しているのが明示され、その資質が社会に対する看護の質を保障するのに妥当であるといえるか	卒業時点でどのような資質を有しているかは描いている。環境の変化に応じて保健医療福祉の向上に貢献できる看護師の育成とあけ、社会の変化により多様化し高度化する中で看護の質を保障できるように看護に必要な知識・技術・豊かな人間性を養うことを目的としている。	2.5	2.5
2	育成する保健師助産師看護師の質を保障するために、どのような教育内容、教育方法、教育環境を整えようとしているのかについて述べているか	質を保障するために看護に必要な知識や技術態度の育成や保健医療福祉の向上に貢献できるように教育することをあげている。	2	
3	看護、看護学教育、学生観について、教師の教育活動の指針になるように明示され、実際に指針となっているか	学生観については明示していないが、教育の中で学習者としての人間形成ができ、一人ひとりの能力を伸ばせるような学習環境を整えることを明示している。日々意図的で計画的に学習者と教授者との相互関係のもと人間形成や看護について学ぶことができるように関わっている。	2.1	
4	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっているか	教務室に教育理念について明示している。1年次オリエンテーション・4月に全校の学生に伝えられている。各学年クラス運営において各学年の到達目標を上げ目標が達成されるように運営している。フロアと全教室に教育理念と教育目的を明示した。	2	
5	自養成所の教育上の特色を明示しているか	地域の保健医療福祉の向上に寄与するという医師会事業目的から保健医療福祉に貢献しうる有能な人材を育成することにつなげて明示している。看護に対する喜びと誇りをもつことは自養成所の特色でもある。それを持ち続けるように講義や実習で看護の喜びを感じることができるように学校として努力している。看護に誇りがもてるようになるために質の高い教育、つまり教員の質の向上、講師の確保や実習施設との連携などができるようにしていく必要がある。	2.2	
		平均 教育理念・教育目的については、尾道市医師会の目的にそってどのような看護師を育てたいか明示されている。今後の課題として知識・技術など各学年到達レベルなど学生に明示し、達成するため具体的な行動ができるようにしていきたい。	2.2	
学校関係者評価	教育理念・教育目的は、明示されており、卒業時点で保健医療福祉の向上に貢献できる看護師像が明示できています。反面、学生観に関する記述が少なく、質疑応答の中で理解できる部分もありました。学生自身が卒業時の姿を描けるように教育計画は実施されていたので良いと思います。学生と教職員で共通認識できると素晴らしいと思います。			

II 教育目標			自己評価平均	学校関係者評価
6	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面の両側面から教育目標が設定されているか	看護師としての知識・技術・態度を身につけ判断力・応用力を持てるようにする側面と教養や感性を高めことや生涯学習し続ける態度を身につけるような目標になっている。	2.6	3
7	教育目標は、設定した教育内容を網羅し、かつ最上位の目標として教育活動のゴールが読み取れるものとして示されているか	基礎的な知識や技術だけでなく、人間を総合的に捉え、判断し、その人に合った援助ができる能力を養うような目標になっている。最終的には多職種が分かり、看護師の役割が分かることが必要である。看護の向上を目指し探究心を養うためケーススタディで看護を振り返り発表することを目指している。	2.4	
8	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として教育目標の設定が設定されていることが述べられているか	専門職業人として生涯学習できる態度を身につけることができるような目標にしている。自ら学び続けることにより、看護の対象に対して看護の質を保障することにつながっていく。	2.2	
9	教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実現可能な目標として明示されているか	教育目標において、到達レベルは各学年の計画で学生に提示し、その目標に向かって到達できるように支援している。各学年の目標・計画におろして実施している。知識は看護に必要な科目修得ができているか、実践力と態度面などは技術試験や実習評価など修得できているかが明示されている。	2.4	
10	教育理念・教育目的と教育目標が一致しているか	教育理念から教育目的・教育目標に下りている。一貫性はある。	2.5	
		平均 教育理念から教育目的・教育目標に一貫性を持たせるようにしている。	2.4	
学校関係者評価	教育目標から到達レベルが明示されている。国家試験の合格率が今年度のみ書かれていますが経時的にはいかにでしょうか。概ね高い合格率をもっておられるように記録しております。卒業生の看護実践力や目標となる判断力・応用力などが評価指標として出るように期待します。			

III 教育課程経営			自己評価平均	学校関係者評価
11	教育課程編成者の活動は、教育課程と授業実践、教育の評価の関連性を明確に持ち、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っているか	教務主任が中心となり運営し、教育目的・目標達成に向けて単位修得できるように講師の調整・評価など公正に実施している。	2.5	

12	教育課程は、看護学の内容、求める学修の到達および学生の成長発達について明確な考え方と根拠を持って編成されているか	教育理念・教育目的・教育目標から教育内容をあげている。教育課程構成図や教育課程進度表、各分野のねらい、科目のねらい 内容をあげている。	2.5	2.5
13	科目編成、単位構成の考え方と根拠を明確にして構成され、その考え方は教育理念・教育目的・教育目標との整合性をもち、構成された科目は看護実践者を育成するのに妥当であり、かつ養成所の特徴をあらわしているか	便覧や教育課程で科目の編成や科目の考え方など明記している。科目も学生や教員にとって何を学ぶかわかるように具体的に表記している。科目からみても具体的である。	2.5	
14	単位履修の考え方とその制約が教師・学生の双方がわかるように明示され、その方法が学生の単位取得の支援になっているか	単位履修に関しては、便覧に記入し単位修得ができるようにしている。再試験や追試験など学則細則に沿いながら検討し公正に単位修得できるように支援している。	2.6	
15	科目配列は、単位履修と看護実践者になるために養成所が設定したその質を維持して修得できるような配列になっているか	育成する看護師の質を維持するためには、マトリックスなどを活用し、何を学ばせる必要があるのか考え厳選していく必要がある。そして各科目で習得した知識・技術が問う語彙し理解されなければならない。そうできるように科目の配列を行っている。	2.5	
16	単位認定の基準（設定）及び方法において看護専門職に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、妥当であるか	評価に関しては講義概要などに明記している。	2.7	
17	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか	既修得単位認定を規程に沿って公正に行っている。	2.5	
18	教育課程を評価する体系が整っており、また、結果の活用においての倫理的規定が明確になっているか	教員の授業に関しては、授業評価を行い公表することはできている。公表においても倫理を考慮してアンケート用紙に明記をしている。今後現行のカリキュラム評価を行い、何ができていて、何が課題なのか明確にする必要がある。	1.7	
	平均	教育課程経営については、学生が単位を修得できるように講義の充実や確実に運営し公正なる評価が行われ単位修得できるようにしている。課題は授業評価はできているが今後さらに検討し講義にいかせるものとするかカリキュラム改正に伴い、カリキュラム評価を行う必要がある。	2.4	
学校関係者評価	講義概要や便覧はよく示されています。			

IV 教授・学習・評価過程			自己評価平均	学校関係者評価
19	授業内容のまとまりづくりの考え方が、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べられているか	講義概要に整合性がもてるように述べている。専門基礎分野の病気についての授業内容が講義内容ではマトリックスから学ばせたい内容の項目だけになっているので今後検討する必要がある。	2.3	2.5
20	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として理論、研究成果、看護の実践的知識など、文献検討を踏まえて授業内容の考察を行い、妥当性ある内容となっているか	各講師努力をしている。	2.2	
21	当該授業内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展などについて明確になっているか	マトリックスを活用して講義を担当している講師などにも説明をし、その講義に必要な内容を抽出と国家試験出題傾向などみていきながら講義ができるようにしている。既習の内容であっても教育内容としてさらに理解を促すなど必要な場合は講師などにも伝えている。	2	
22	当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容のまとまりとして考えられているか	マトリックスを活用し、何を学ばせる必要があるか検討しないようを精選している。	2.2	
23	履修形態（講義、演習、実習）は、授業内容のまとまりづくりに応じた形態が選択されているか	基礎分野ⅠとⅡは講義・演習・実習につながるようにしている。	2.6	
24	授業の中でとる指導技術についての考え方を看護学教育の視点から明示し、実践しているか	看護過程の中に指導技術がある。2年生で指導技術を学び、3年生で患者教育についても学んでいる。	2.2	
25	当該授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的選択し、学習を支援しているか	授業以外でも毎月1回各学年脳ナビを行っている。補習講義なども教育課程以外で行っている。学生のアンケートからも学習効果が表れている。	2	
26	学生に対し効果的な教育指導を行うにあたり、教員間でどのような連絡調整（教育内容や方法についての打ち合わせ・教育内容の重複の調整など）を行っているか	日々の教務室の中で同じ領域や関連する科目など話をしている。教員同士で授業に入り、評価をしている。	2	
27	評価と指導の表裏一体性を踏まえた評価計画が立案・実施され、評価結果は、明確な意図のもとに活用され、実際に授業が改善されているか	授業評価を行い、公表し授業改善に努めている。しかし今後体制を作る必要がある。評価は学生だけでなく、自己評価、教員間で授業に入りリフレクションするなど授業評価を行っている。	2.6	
28	可能な限り、学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価方法を取り入れ、目標の達成状況を評価できる方法であり、目標の達成状況が明確に捉えられているか	学生および教育活動を多面的に評価するためにレポート・発表、実習などでは記録だけでなく観察などにより評価している。ルーブリック評価を導入し到達目標が明確にした評価、その目標に向かって主体的に行動できるようにしている。	2.3	
29	評価方法について、特に単位認定のための評価については、学生に公表（認定基準等）し、公平性があるか	単位認定には、教員間での確認を行い、正確性を持ち、前期と後期で保護者に成績を送って公表をしている。日々試験返却にも公平性をもち、自分の平均点など計算し、今自分がどのような結果が出ているか認識できるようにしている。	2.6	
30	各授業の評価計画が教育課程全体へフィードバックできるようなシステムがあり、実際に機能しているか	カリキュラム評価はできていない。今後の課題である。	1.4	
	平均		2.2	
学校関係者評価	講義概要と専門基礎分野のマトリックスで分かりやすくなっています。教授内容として押さいたい疾患が講師毎に分かる可視化は良いと思います。講師が活用できるように説明はあるのでしょうか。授業評価を積極的に取り入れ、教員間の授業に関するリフレクションなど努力が高評価に反映されていると思います。縦割りの授業評価も入れられると特色になるのではないかと思います。授業評価はされているが、全体へのフィードバックが不十分であると思います。			

V 経営・管理過程と財政		自己評価平均	学校関係者評価
31	養成所の設置、教育理念、教育目的、教育課程運営、教育評価、および養成所の管理運営に関する管理者の意思が具体的かつ明確に表示され、教職員に理解されているか	教育理念から降りて養成所の運営について実施評価し、計画を立案している。	2.5
32	養成所の財政基盤をどのように確保しようとしているのかについて明確な考え方をもち、学修・教育の質の維持・向上につながるようになっているか	財政の部分については教育用備品や図書費で理解できていない部分である。	1.8
33	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているのかを理解しているか	学納金・補助金・雑収入（入学金など）などから運営されている。	1.5
34	養成所の水準を設置指定時から、さらに今後どのように維持・発展しているかを述べているか		1.5
35	自由裁量について、科目構成のどのような内容として現しているか、そしてそれが、自校における教育の質を高めることにどのようにつながっているかを述べているか		1.5
36	指導体制は文書、資料に記述されたように実現され、また、改善の対策が明確になっているか	臨床指導者会議資料、会議録などで振り返り、改善策を明確にしている。	2.1
37	実習施設の選択、学生の配置等の考え方は、学生の看護実践の学修に適しており、かつ、教育目的・目標に一貫しているか	在宅看護論実習などは統合分野であり後期に入れる必要があるが、前期から入れて学べる環境をし実習施設と連携し学習が習得できるように指導している。学生が少人数で実習した方がよい場合なども考えて配置している。教育目的・目標を達成するためにも実習施設や学生の配置なども検討している。	2.3
38	臨地実習施設は、養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を習得する体制を整えているか	学校は臨地実習施設に、どのような学生を育てたいか、どのように指導していく必要があるかなど日々の指導場面や臨床指導者会議などで伝えてよりよい学習ができるように整えてもらっている。	2
39	学習・教育環境について、管理者としてどのような考え方をもち整備されようとしているのかを示され、その考えに基づいて整備計画が立案され、実施されているか	毎年重点目標や学校運営から教育課程経営・実習調整・国家試験対策・各学年計画が立案され実施・評価している。	2.1
40	保健師助産師看護師教育に必要な施設設備が計画的に整備され、また、医療・看護の発展にあわせて整備・改善できるようになっているか	昨年度設備での問題を次年度改善できるように項目としてあげ、改善している。学習に支障がないように予算とみていながら改善している。	2
41	自養成所の学習・教育環境が、学生の学習にとって、また教師にとってどのような影響をもたらしているかをみる視点をもち、その情報を的確に把握し、学習・教育環境の改善を行っているか	教育用備品で新しいマットレスを購入していった。毎年図書購入し図書の充実を図っている。学生のアンケートから机と椅子など使用づらいという意見があり、学習環境を整えるために平成30年度変更していった。今後も学生から意見を聞き学習環境の改善に努める。	1.9
42	学生が入学後に学修を継続するための支援体制が多角的に、かつ学生が活用しやすいように整えられ、実際に学生生活の支援になっているか	奨学金制度の活用による経済的支援体制・アルバイトと学業が両立できるように適宜面接を行い支援をしている。カウンセラーを配置し、相談できる体制にしている	2.4
43	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確に持っているか	自己点検・自己評価をおこなっていたが、基準となるものの知識がなく評価している状況であった。2019年度から自己評価委員会・学校関係者評価委員会・第三者委員会とつなげていき、できているところ・課題について明確にし、改善できるところを計画的に改善していく。	1.8
44	養成所の自己点検・自己評価体制が整えられ、運用され、その機能が養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックされ、養成所の教育理念、目的、目標が維持・改善されているか	授業評価をしていたが、十分な振り返りができておらず活用できるまでにいたっていなかった。カリキュラム評価体制を作り、見直しをしていきたい。	1.9
45	養成所の将来像を構想として表現されているか	地域包括ケアシステム推進、地域に貢献できる人材の育成を目指すことなど学校案内などで表現している。	1.5
平均			1.9
学校関係者評価	学生の教育環境となる教員の質を高めるための工夫や教員自身のモチベーションが維持されているのは素晴らしいと思います。財務状況に触れる機会が少ないのも事実ですし、今後は全ての職員が財務に関する意識を持つことが求められているように思います。施設設備も計画的に補充されています。ICT環境の改善は法制度改善と基金の活用など財政計画が大きくなるので今後の課題だと思います。実習施設とも定期的に指導者会議・研修会を開催されており、実習における学習習得に力を入れている。		2.5

VI 入学		自己評価平均	学校関係者評価
46	教育理念・教育目的との一貫性から入学選抜についての考え方が述べられているか	特別推薦もあり地域枠を出した。看護師として学習できる力や考える力、人間関係が築ける学生など考えて高校評定を明示し、入学試験では論文、面接、筆記試験などで入学選抜を行っている。	2.1
47	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証されているか	大学数増加や近隣の専門学校の増加など受験者の減少から学生確保のため専願・併願・社会人・一般入試3回実施している。看護師を希望する学生を現役学生だけでなく社会人も入学できるように実施している。平成29年度学生状況から推薦入試で学生確保に努めることができるようにし今年度入試結果を基準と照らし合格を決めていった。	2.5
平均		よりよい学生を確保するためにも入試委員会や運営委員会など検討していきたい。	2.3
学校関係者評価	受験生を確保できていると思います。今後もSNS発信など知名度を上げれば需要はあるように思います。		3

VII 卒業・就職・進学		自己評価平均	学校関係者評価
--------------	--	--------	---------

48	卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析した結果は、教育理念・教育目標と整合性があるか	地域に貢献できるように尾道及び県内で就職するように指導し、30%尾道、50%が広島県内での就職ができた。しかし進学は今年度なく、進学できるようにサポートする必要がある。	1.9	2
49	卒業生の就職先での詳細を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っているか	現在卒業生の就職先での詳細を把握できていない。把握することで教育の問題が明確になり、教育の改善にもつながる。卒業後看護実践力をどのように発揮しているか、卒業時の習得状況と関連し把握する必要がある。今後まず尾道市内で就職した卒業生の情報を把握していきたい。	1.3	
50	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育目的、教育目標、授業の展開に活用できるようになっているか		1.4	
51	卒業生の目標状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行っているか	長期的に卒業生の活動状況を把握する必要がある。就職先や卒業生アンケート、同窓会とも連携し情報を把握し改善に努める。	1.5	
平均		卒業生の就職先での活動状況など把握し、看護教育の到達度や課題を把握し、改善を図る必要がある	1.5	
学校関係者評価	卒業生評価の検討も含めて今後に期待します。県内就職が8割なの広島県に貢献できています。卒業生の第1希望となれるように地域の施設も努力が必要だと感じました。県外に出られる卒業生も帰ってくるきっかけやまた、他地域からの受け入れも医師会ならではの連携で実現していただきたいと思いました。			

Ⅷ 地域社会との連携・国際交流		自己評価平均	学校関係者評価	
52	社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して貢献しているか	社会的活動を行っている。	1.8	2
53	養成所の教育活動について地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っているか	HP、社会的活動や学校祭から学校についての情報を発信している。	1.6	
54	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の教育課程へ取り入れているか	寝たきりになら連の参加、臓器移植についての講演、防災訓練での講演、施設見学、芸術鑑賞など行っている。	1.5	
55	国際的視野を広げるための授業科目が設定されているか	国際看護の科目を設定し国際的視野を広げるように学習を進めている。	2.3	
56	国際的視野を広げるための自己学習システムが整っているか	国際看護で1つの国を取り上げて学生自身が調べ看護に繋げていく学習をしている。外国の蔵書などはないが、インターネットの活用などから学習できるようにしている。	1.3	
57	海外からの帰国学生や留学生の受け入れについて応じる体制があるか	応じたいと考えているが、まだ受け入れておらず具体的に教員の対応までの体制は整っていない。今後海外からの学生は増加する可能性がある。体制を整えていきたい。	1.1	
58	海外留学を希望する学生に対応できる体制があるか	留学に関するポスターの掲示などは行っているが、学生の希望がないため体制が整っていない。	1.1	
平均			1.5	
学校関係者評価	ホームページを活用されています。留学生の受け入れ等、多様化、グローバル化する社会への対応準備は必要かと思いますが国際看護の科目立てにより視野は広がっていると思います。卒業生評価が待たれるところです。			

Ⅸ 研究		自己評価平均	学校関係者評価	
59	教員の研究活動は保障（時間的、財政的、環境的）されているか	看護研究活動ができるよう財政的には確保しようとするが、研究する時間や環境は十分ではない。課題として、業務整理や時間管理をし、研究できるような環境を整えたい。	1.6	1.5
60	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか	尾道・三原支部の研究指導や看護協会の研究指導もあるが、研究をまとめるまでに至っていない。	1.6	
61	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか	グループになり教員相互で支援し合う環境にはある。教員は1年間で計画的に研修に参加し情報共有している。授業研究をしており自由に参加しリフレクションができる体制にはある。	1.8	
平均		日々の業務の忙しさにより研究活動ができていない。このことは課題である。	1.7	
学校関係者評価	研修参加はなされています。自己評価の低い部分ではありますが、授業評価等は講義研究に匹敵するように思います。忙しい校務の間を研究に割くことは至難の技を推察します。何かあれば協力させていただきたいと思います。			